

令和3年10月 市長定例記者会見

令和3年10月1日(金)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今より令和3年10月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質問応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、まず挙手をお願いいたします。そして、ご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようお願い申し上げます。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくをお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 では、10月の定例記者会見です。どうぞよろしくお願いいたします。

9月議会が閉会いたしまして、少しほっとしておりますけれども、市内の宿泊促進事業などをお認めいただきまして、これからしっかりと進めていきたいと思っております。

また、次年度の当初予算に向けてだんだんと政策を作っていく時期になってきましたので、しっかりと新しいウィズコロナ、アフターコロナに向けたことも含めながら前に進めていかなくてはいけないと考えているところです。

今日は、福井県全体でコロナの発生がゼロということで、非常にありがたいと思っております。ワクチンの接種につきましては10月末までに8割以上の方の接種ができる段取りになりましたので、一息ついてほっとしておりますけれども、取り残しのないように、しっかりと皆様にもう一回通知をして、希望される方が打てるような体制をしっかりと取っていきたいというふうに思っています。

それから、9月1日から健康アプリ「敦とんあるこ」というのを導入して進めておりましたが、おかげさまで登録者数が2000人を超えたというふうに聞いております。秋のシーズン、健康の秋ですので、しっかりと運動していただき、生活習慣病予防とかフレイル予防とかいうところに進めていきたいと思っております。

あわせて、本日から県のほうでは、オクトーバー・ラン&ウォーク2021「福井県大会」というのが1か月の期間で始まりましたので、これにつきましても市民の皆さんにしっかりと登録をして参加していただきたいというふうに思っております。

今から過ごしやすいシーズンになってきますけれども、一方で、台風が来たり、また寒くなったりしますので、災害等にも対応していきたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 本日の事業発表は1項目です。

奈良県生駒市との友好都市提携についてでございます。

現在、原子力災害時の広域避難先となっております奈良県生駒市が本年度で市制施行50周年を迎えるに当たり、新たな友好都市として本市への締結の要望がありました。避難先の方々と日頃から顔の見える関係の構築を願う本市にとりまして、ありがたい申し入れであり、生駒市と将来にわたり親交を深めていくため友好都市提携を結ぶことといたしました。

また今後につきましては、コロナ禍の状況を見極めながらではありますが、引き続き市民の皆様が交流できるような取り組みを進めていきたいというふうに考えております。

生駒市の50周年記念式典は11月7日日曜日、また、友好都市の提携調印式は11月2日を予定しております。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今発表いたしました項目につきまして質問をお受けしたいと思っております。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 先ほど発表いただいた生駒市なんですけれども、生駒とのこれまでの交流、例えばこんなことをしてきたというのがあれば教えてほしいのと、今後交流したいということなんですけれども、例えばこんなことがしたいというものがあれば教えてください。

【市長】 平成26年2月26日に、原子力災害時等における敦賀市民の県外広域避難に関する協定というのを奈良県内の4市と締結しております。生駒市、奈良市、大和郡山市、天理市であります。

その中で、私ども、顔が見えないので、どんな人がいるか分からないというのが一つ。もう一つは、行ってみて気がつくんですけれども、向こうの方たちも同じことを思っているだろうなど。

そうすると、こんな人が来るんだなというのを少しでも分かっていたらいいなということで、バスで生駒市を含めた4市に行こうという試みと、それから、あちらのほうから敦賀市に来ていただくという試みをして、こんな人が来るんだな、普通の人があるんだなというのが分かればいいなということを取り組みとして進めております。

生駒市と今後何をしていくかというのは、また相談して決めることとなりますけれども、子供たち同士の繋がりなどに取り組んでいけたらいいなと考えています。私ども奈良県のほうに旅行に行くというのはなかなかないんだと思いますし、向こうの方たちがこっちに来ることもなかなかないというふうに思っていますので、新しい観光のつながりというのも結んでいけたらいいなというふうに考えています。

【総務部長】 今ほど市長が申し上げたことがほとんど全てなんですけれども、まず市民団体の交流とかにつきましては、原子力避難の協定を締結しておりますので、例えば区長会さんとか日赤の方とかが生駒市に行って交流を既に実施しているところでございます。

以上です。

【記者】 ありがとうございます。

11月2日の提携調印式なんですけれども、これは生駒市側から敦賀市のほうにどなたかが来られるのでしょうか。

【市長】 敦賀市のほうでやるというふうに伺っていますので、小紫生駒市長さんが敦賀

に見えるというふうに聞いています。

【記者】 逆に、記念式典では渋上市長は行かれるのですか。

【市長】 はい、記念式典には伺いますけれども、そこで調印式とかそういうものではなくて、そこは50周年の記念式典の中に参加させていただくという形になると思います。

【記者】 最後に1点、10月末に美浜地域の県の原子力防災訓練が予定されていますけれども、白木の住民61人の方は奈良県生駒市が避難先に指定されています。今回の訓練で、実際に生駒市に避難する訓練をするというようなお話は出ていますでしょうか。

【市長】 行くかどうかというのは、コロナ禍なので、まだ検討中というふうに聞いています。はっきりと行くということは決まっておられません。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきまして質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、次第の3番目、フリーの質疑へと移ります。これも幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 自民党の岸田総裁が決まって、役員人事もほぼ決まったということで、これについて、特に原発の立地の市長さんとして、どう受け止めているのか。この辺を改めて伺いたいと思います。

【市長】 岸田総裁が決まったということで、与党の総裁ですから、国民に寄り添い、コロナ禍で多くの課題がたくさんあると思いますけれども、しっかりと対応していただきながら、原子力政策についても前に向かって進めていきたいというふうに考えています。

今度、顔ぶれがどういうふうになっていくか、大臣がどう変わっていくかというのも一つあると思いますが、エネ基を閣議決定して、パブリックコメントを求めている状態ですので、この後どうなっていくのか、しっかり見極めていきたい。ですからもう一回、できれば私とするともう一回出してほしいなというような気持ちはありますが、そこまでそういう仕掛けができるのかどうか分かりませんので、そういうことも含めて岸田新総理とつながっていききたいというふうに思います。

【記者】 関連の質問なのですが、地元選出の高木さんが国対委員長ということになる。これについては、どういうふうに受け止められていますか。

【市長】 議院運営委員長もかなりの役職だったと思いますので、継続してそういう立場にいらっしゃるといのは非常に心強いと思っていますし、また、その役目ではないですけれども、しっかりと原子力政策が前に進むような発言とか、そういう動きをしていただけたらいいなというふうに期待しております。

【記者】 日本原電の敦賀2号機ですけれども、改めて、そもそも有識者会合で活断層が否定できないという話があって、さらに、この間の安全審査でもって日本原電が書換えを行って、今、審査会合が中断という。聞いたところ、まだそういう前例がないそうなんですけれども、そういう事態に陥っているということで、もしかしたら敦賀2号が動かないという事態も想定しなくてはいけないんじゃないかなというふうに思うんです。

そういったことで、いわゆる原子力に代わるような将来を見据えたこともなさっていると思うんですけれども、そのことについて、今の見通しとか成果とか、どういうふうにご覧になっているかというのを教えてください。

【市長】 水素の見通しのことですか。

【記者】 水素に限らずですけれども、いろいろあると思うんですけれども、そういう見通しというか、今の到達点というか。仮に原子力が止まっても大丈夫ですよというぐらいのものができているのか。あるいは、まだまだ全然そういうものはできていないというふうに見ているのか。その辺をちょっと伺いたいですけれども。

【市長】 なかなか難しいお話ですけれども。

2号機につきましては、審査が止まったということで、活断層なのか、危険なのか、ちゃんとできているのかという議論じゃなくて、書類が信用できるできないというところに来ていますので、一旦お互いにクールダウンして、冷静な議論ができるような期間というのを取る上では、かえってよかったのかもしれないというふうに思っています。いつまでも水掛け論で言った言わないみたいな世界が続くんじゃなくて、一回クールダウンして、これですよ、じゃこれを審査しましょうというのが一つの方向性として望ましいのではないかなど。その中で、原子力規制委員会の信頼をしっかりと日本原電には獲得していただきたいと思っていますし、規制委員会は、そういう意味では、こういうのを出したらいんですよというのをしっかりと示していただきたいというふうに思います。

今おっしゃった、それに代わるものというのがありますけれども、私ども、原子力の経済的な効果に対して、同じぐらいの桁数の金額が効果があるものはなかなかないというふうに思っています。ですから、その中でどうしていったらいいんだろうということの中で、新幹線が来ますので、観光ということを考えたらどうだろうと。宿泊、飲食業が多いわけですから、接客業に従事されている方も多いので、そういう人たちが観光という目線でそういうことにシフトすると一ついいのかなということを進めています。

それからもう一つは、産業という部分で、V P P（仮想発電所）をメガソーラーを使って回すことで再生エネルギー、グリーンエネルギーを供給できますよということによる企業の誘致ができないかなど。もしくはそういう意識の高い個人の人たちが住むんじゃないかなということ提案していきたいということを思っていますけれども、原子力がなくてもいいんじゃないかと、それを進めていっていただく、プラスもう一つの軸としての産業の複軸化ということをしていきたいということが私どもの進めている方向性です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。ご質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 ちょっと話題を変えまして、先ほどの9月定例市議会でも入館者数についてなどが話題となりました新ムゼウムが11月に1周年を迎えますが、改めて伺いたいですけれども、開館1年を控えて、その成果と課題というのを伺いたいです。また、ムゼウムの2階に感想コーナーがあって、リンゴマークの紙に感想を書くコーナーがあるんですけれども、そこを見ると、100年近く前の敦賀や日本の人たちがした行為を日本人として誇りに思うとか、子供の字で、平和が一番大切と教えてくれた、昔の敦賀に感謝していますとか、そういうようなこととかも書いてあるので、そういったことなども含めて、今後の人道の港の発信とか、そういったことについて、まずお聞かせください。

【市長】 ムゼウムが開館して、入館者数が少ないので議会では批判を受けましたけれども、私ども、歴史的な敦賀の財産、また日本の財産として、人道の港というポーランド孤児とユダヤ難民の史実というのは非常に大事なものだと思います。

その中で、ポーランド、リトアニアに私自身行ったりとか、アメリカのユダヤコミュニティの方々とお会いして新しいムゼウムがオープンしますよという話もしてきました。当時はオープンに合わせて行くよとまで言っていただきました。ポーランドも本国から政府要人を送るよということも言っていただいたんですが、コロナ禍でお見えになることができませんでした。また、外国人の方も今コロナ禍なので来られませんので、非常に当てが外れた感じがあります。

一方で、県内の学校団体が修学旅行で来ていただいております、子供たちの目で改めて敦賀のムゼウムを見たときに、今おっしゃったように、こんなことがあったのか、誇らしく思うとか、そういうふうに言っていただけるというのは非常にありがたいですし、私どももそこが原点ですので、こんな史実があって、普通の人は普通の日本人は優しかったんだということが発信できないかというのが根底にありますので、そこを受け継いでくれる人たちがこうやって来てコメントを残していただくというのは非常にありがたいなと思っております。

あとは、アフターコロナというところで、もう一回、外国人の方たちが来ていただくということを進めていきたい。

ですから、コロナがあったおかげで、そういう県内の子供たちが来ていただいて、改めて私たちもそういうところに学んだという部分があるかと思えます。

それから、エピソードについては、あれは要人が見えたときにはいろんなことを書いていただくんですけども、それと普通の方たちが書いてくださる、ああいうリンゴの紙に感想を書くコーナーを作ったのは非常に正解だったのだらうと思って、提案していただいた方に感謝したいなというふうに思っております。しっかりと財産にしていきたいと思えます。

【記者】 次のアフターコロナのお話がありましたけれども、そういった中でさらなる展開をどういうふうに展望しているかという点と、もう一つ、今回、ホストタウンのポーランドの選手たちに実際に来てもらうことができなかったということがあると思うんですけども、そういった意味での国際交流についてなども、考えがありましたらお願いします。

【市長】 ポーランドとのつながりですけれども、オリンピックの開会式に合わせてアンジェイ・ドゥダ大統領が来日されました。そのときに東京にあります福田会と、それから大使館でレセプションがあったんですけれども、そこに私も参加させていただきました。その中で、福田会の中でも敦賀のエピソードを紹介していただきましたので、大統領もコメントの中でも敦賀のことを入れて、感謝しているということも言っていただきました。

それから、ホストタウン事業で、交流はできなかったんですが、新しいムゼウムでポーランドの国旗の色にライトアップしたのと、それからYouTubeでコメントを出させていたんですが、そのYouTubeを向こうのマスコミの方が取り上げていただいて、ポーランド国内で非常に好評をいただいているというのを大使館に行ったときに大使館の職員の方がおっしゃってくださいましたので、そういう意味では、しっかりとつながりが深まったんじゃないかなというふうに思っています。

先日、敦賀高校の創生部の子供たちと、それから新しくポーランド広報文化センターの所長になられたウルシュラ・オスミツカさんという女性の方ですけれども、その方との意見交換もしていただいたので、そのときにすごく知識が豊富で説明も丁寧だということで

感激されておりました。子供たちのほうも外国人の方と交流を持つというのはなかなかできない体験なので、これをきっかけにもう少し広げていきたいなというふうに思っています。

【記者】 新庁舎の供用の開始が新年からということだと思えますけれども、例えば完成とか引っ越しとか、その辺のスケジュール感とか、もう出ているかもしれませんが教えてもらってもいいですか。

【市長】 引っ越しは年末年始です。ですからオープンが1月4日なんですね。今月中に大体出来上がって、11月21日に竣工式を行います。業務に差し支えない分は予め持っています。実際に業務に差し支えなく移動しようとするとう年末年始を使うしかないの、その後の新年から新しい庁舎という形になります。

1月4日スタートです。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして10月の定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後 1時53分 終了